

地域会議の開催状況等について

凡例【主な開催内容】

○：事業説明等、◇：支援金や木育事業の選定、◎：実施状況報告、■：現地調査

区 分	委員数	既 報 告 分			今 回 報 告
		第1回県民会議 (7月16日)	第2回県民会議 (11月13日)	第3回県民会議 (3月17日)	
久 野 地域会議	8名	第1回 6月10日開催 ○、◇		第2回 11月13日開催 ◎、■	第3回 3月7日開催 ○、◎
小 笠 地域会議	8名		第1回 6月27日開催 ○、◇ 第2回 8月26日開催 ◎、■	第3回 11月12日開催 ◎、■	第4回 2月25日開催 ○、◎
諏 訪 地域会議	7名	第1回 6月5日開催 ○	第2回 7月8日開催 ◇	第3回 11月6日開催 ◎、■	
上 伊 那 地域会議	9名	第1回 6月11日開催 ○、◇	第2回 10月2日開催 ◎、■		第3回 3月11日開催 ○、◎
南 信 州 地域会議	10名	第1回 4月30日開催 ○	第2回 6月27日開催 ◇、◎	第3回 12月5日開催 ◎、■	第4回 3月11日開催 ○、◎
木 曾 地域会議	9名	第1回 6月2日開催 ○	第2回 7月2日開催 ◇、■	第3回 11月21日開催 ◎、■	第4回 3月5日開催 ○、◎
松 本 地域会議	8名		第1回 7月17日開催 ○、◇	第2回 11月6日開催 ◎、■	第3回 2月27日開催 ○、◎
大 北 地域会議	11名	第1回 5月20日開催 ○、■	第2回 8月4日開催 ◇、◎、■		第3回 3月11日開催 ○、◎
長 野 地域会議	7名	第1回 6月26日開催 ○、◇		第2回 11月18日開催 ◎、■	第3回 3月24日開催 ○、◎
北 信 地域会議	8名	第1回 6月20日開催 ○	第2回 7月17日開催 ◇、◎、■	第3回 12月17日開催 ◎	第4回 3月11日開催 ○、◎
計	85名	8会議分	9会議分	8会議分	9会議分

地域会議開催状況

(注)・各会議の委員は、五十音順・敬称略で記載。◎は座長、□は座長代理。
・主な意見については発言順で、質疑関係は除いて記載した。

平成 21 年 2 月 25 日 (水) **第4回 上小地域会議** (上小地方事務所)

【会議事項】

- 1 税活用事業の実績見込み
- 2 平成 21 年度事業計画
- 3 意見交換

【出席委員：7名】

- | | |
|---------|---------------------|
| 上原 栄子 | 青木村農村女性グループ |
| 加々美貴代 | NPO法人やまぼうし自然学校 代表理事 |
| 齋藤 篤 | 上小木材青壮年団体連合会 会長 |
| 坂口喜久夫 | 上田教育事務所 主幹指導主事 |
| ◎ 竹内 邦義 | 長和町役場 産業振興課長 |
| 松沢 康博 | 信州上小森林組合 企画幹 |
| □ 山越 元 | 上小地区生産森林組合連絡協議会 会長 |

【主な意見】

- 松くい虫で枯損した木と一緒にその周辺の木も処理しないと、必ずその周りの木も枯れてくる。そういった部分をみんなで支える里山整備事業（間伐実行の事業）でやらせてもらえると効果があるのではないか。
- 間伐材が売れなくなっている。生産森林組合で間伐の収入を当てにしていたところが収入が入らなくなってしまった。そういうところにも補助金を出してもらえると間伐が進むのではないか。このままでは全て切り捨てになりはしないか懸念している。
- 山のないところからも山の整備のためのお金をとっていいのではないか。県民へのPRもいまひとつ必要なのでは。同時に県外への働きかけも大切ではないのか。
- 不在村地主などが増えている。親戚がいてそこに任せているというところはまだいいが、そうした人がいない山についてはどうしても手が入らなくなってしまう。
- 現在1棟の住宅約40坪程度で、外材を使う場合と、国産材を使う場合とでは約40万円ほど差がでる。もちろん国産材を使用した場合のほうが高いわけで、今県で40万円の補助がでる。来年度は予算が減ると聞いている。合板も先が見えない。円高で安く外材も入ってくる。
- 間伐の推進に対して木材利用を進めることが大切。皆さんに意識を持ってもらいたい。シカの被害を受けている森林は草がなくて、知らない人にはきれいに見える。そうした人たちに本来の森の姿を知ってほしい。
集約化の事業の、2年以内に間伐実施という基準について、森林組合だけでなく林業に携わる事業主体も幅が広い。森林組合のように効率よく間伐の仕事をしているところばかりではない。2、3年といった時間をかけてやっている人もいる。基準を緩和すればそうした人たちの事業も取り入れることができるのではないか。
- 間伐が終わった山の木をボランティア作業で薪として手に入れるようなことができれば。



【会議事項】

- 1 税活用事業の実績見込み
- 2 平成 21 年度事業計画
- 3 意見交換

【出席委員：6名】

- | | |
|-------|---------------------|
| 大月 國晴 | 松本林業士会 会長 |
| 菅原 聰 | 信州大学名誉教授 |
| 関森 省吾 | 筑北村長 |
| 西村いそ子 | 松本フォレストレディクラブ 会長 |
| 宮崎 威 | 安曇野市商工会 事務局長 |
| 向井 清 | 松本広域森林組合 代表理事組合長 |
| 若林 茂孝 | 間伐推進員 |
| 増田 富重 | （松本広域森林組合参事 向井委員代理） |

【主な意見】

- 県民から見ると、ここは森林税を使ってやった、ここは通常事業でやったということはあまり関係ない。総合的にやっていただければよい。
- 集約化事業という言葉について、一般の人は、その具体的な内容についてなかなか分かりにくいのではないか。
- 森林簿という台帳がないと誰の山かまったくわからない。個人情報に関係もあり、すぐに森林整備に着手するというのは難しい。森林組合や行政など、森林所有者の整備の意向を確認しやすいところでまとめて、施業はまた別の人がやるという形はどうだろうか。
- 森林所有者の中に東京などに出てしまっていて、地元にはいない人がいる。その人の森林整備の同意をとるために、理解を求める仕事は大変である。
- 集約化という作業は地域の人がやるのが一番いい。都会に出てしまっている場合、地元で親戚がいる場合が多いので、その親戚の方に整備をやりたいから連絡を取ってほしいと話す方法がよい。
- 同意をとれなくても森林整備をできる方法はないのだろうか。この課題についてきちんと整理しておく必要がある。
- 県民から見ると山を持っていない人のほうが多い。税金を取られているという意識の方がたくさんいる。県民の立場から考えると、この税金がどのように使われているかよくわかっていないのではないかと思う。森林整備を実施した箇所へのぼり旗や横断幕を設置しているということだが、そこへ行かないと見えない。いろいろな効果的なPR方法をやっていく必要がある。
- モデル団地 1 箇所へのぼり旗を 2 本立てたということであったが、もう少し増やしたらよいと思う。
- 作業路の整備は、今後の基盤の整備としても必要である。
- 森林づくり推進支援金は各市町村の特徴があること、その市町村しかできないことをやってほしい。



- 市町村の特徴が出るように使ってもらえることをもっとPRしたほうがよい。
- 松くい虫の被害の拡大が今後どうなるのか見通しが立たず、困っている。
- 来年度の税事業による間伐の面積を倍にするということであるが、それなりの労働力がないとやっていけない。
- この地域は他の地域に違って林業事業体の数が少ない。その方たちと協力して森林整備の体制を作るなど、担い手の育成強化が必要である。
- 搬出間伐は、切り捨てに比べて多くの労務が必要となるので限られた予算の中でできる面積は小さくなる。
- ホームセンターなどで販売されている木材の価格を見れば安いので、地元の間伐材の利用は難しいと感じる。地元の材を使うことはよいことだとわかっているが、間伐材の利用というのは本当に難しい問題だ。
- 間伐材を搬出できないのはもったいない。出せば出すほど経費がかかってくるとなると、それもまた大変なことだ。
- 一年たったところで森林税の動きがようやくわかってきた。森林税が県民にわかっていただけのかどうかということが、大事な問題だ。
- これから森林税をどうやって活かすかということについて、各自治体もPRをやっていかなければならない。
- 有害鳥獣対策は地域の課題である。農地の荒廃が増え、山も荒れてきている。専門家の意見を聞いて、地元のみなさんと一緒に対策をとっていく必要がある。
- 地球温暖化の問題で森林に関心を持っている人はいっぱいいる。昨年からは森林税に関するパンフレットも配られていて、森林税に対しては理解が進んでいると思う。ただ、森林のこと、整備の内容のことなど、具体的なことについては誰も知らないのではないか。
- イベントで木を植えた後、下草刈りなどをしないでいると、数年もたてば草が大変に大きくなってしまふ。継続的に作業を行う仕組みを作らないといけない。森林税は5年間なので、さらに長期的に考えたほうがよい。
- 今、間伐が全部であるような形でやっているのはおかしいと思う。植えてから伐るまでの全体のことを考えていかなければならない。
- 森林税でいろいろな面の施策をやってもらいたい。間伐ばかりでなく、慌てずにじっくりやってもらいたい。一般の人が目に付くようなところから手入れをしていって、理解を得ていくことが必要ではないか。
- 地域会議で実際に現場を見たことで、森林整備や木材について理解が進んだ。森林税は今年から法人も納めるようになるので、関係する法人の方にもPRしていただきたい。
- 山というのは、植林して、手入れをして伐採するということの繰り返しである。今の時期は間伐をやらなければいけないので、人を増やし、業者の方たちと連携してやる形を考えている。ただ、新規の人たちを一人前にするのに時間がかかる。一人前になったところに森林整備の仕事が少なくなれば、何のために増やしたのかということになってしまう。
- 間伐はやらなければいけないが、全体のバランスもあって、長野県に住んでよかったという環境にしていかなければならない。森林整備を計画どおりにできなかったとしても、だれも駄目だとはいわないと思う。

平成 21 年 3 月 7 日 (土)

第3回 佐久地域会議

(佐久地方事務所)

【会議事項】

- 1 税活用事業の実績見込み
- 2 平成 21 年度事業計画
- 3 意見交換

【出席委員：7名】

- | | |
|---------|----------------|
| 井出 興生 | 佐久林業経営者協会 副会長 |
| ◎ 井出 玄明 | 北相木村長 |
| 岩下 一平 | 臼田高校 環境緑地科教諭 |
| 小林 弘道 | 長野県経営者協会 佐久支部長 |
| 田中弓美子 | 南佐久消費者の会 副会長 |
| 古越 修 | 佐久森林組合 参事 |
| 渡辺 正美 | 佐久林業士会 |

【主な意見】

- 間伐を進めるには作業路が必要である。作業路の作設を進めることに森林税を使えるようにしていただきたい。また、補助金の嵩上げにも使えるようにしていただきたい。
- 世界的にも景気が厳しいが、雇用対策として森林税を活かしてほしい。
- 新規雇用した事業者への支援を検討していただきたい。



平成 21 年 3 月 5 日 (木)

第4回 木曾地域会議

(木曾地方事務所)

【会議事項】

- 1 税活用事業の実績見込み
- 2 平成 21 年度事業計画
- 3 意見交換

【出席委員：8名】

- | | |
|---------|----------------------|
| ◎ 浦沢 英一 | 木曾郡森林組合長会長 (木曾森林組合長) |
| 大橋 けい子 | 上松町特産品開発センター利用組合 組合長 |
| 黒田仁左衛門 | 木曾団体有林連絡協議会 会長 |
| 田上 正男 | 木曾郡町村会 上松町長 |
| 羽根 正熹 | 大桑村殿地区郷土の森整備組合 組合長 |
| 巾崎 理一 | 林業経営(長野県指導林家) |
| 深澤 衿子 | 木曾すんき研究会 副会長 |
| 松越 勝人 | 元王滝村産業課長 |

【主な意見】

- 税事業による間伐で日光が射すようになってよかったが、もう少し強く間伐したほうがよいと感じる場所もある。税事業の推進とともに、適切な間伐の指導を。
- 松くい虫も南部から北部への拡大が懸念されるので、ある程度の予算を持って北上防止に努めていただきたい。
- 森林税を活用して緩衝帯整備を進められたことは良いことだが、実施後の効果を地域で検証し、藪が茂らないよう地域の人たちによるフォローが重要だ。

- 間伐材の搬出率が低いので、地域の木材が有効に利用されるよう、研究を進めてほしい。
- 個人では手をつけられなかったり小規模所有地が点在している箇所を実施できてよかった。
- 緩衝帯整備の取組事例に関して、団塊の世代の元気のいい人達がいって非常に大きな効果をあげている。雇用の部分でも山づくりに関心のある人を呼び込んでほしい。里山モデル事業でも住民にいい形で協力していただけた。実際伐ったところを見ると意見も出るし、住民も山の整備に大変関心を持ってきている。一生懸命やっている地域を今後とも是非応援してほしい。



平成 21 年 3 月 11 日 (水)

第3回 上伊那地域会議

(上伊那地方事務所)

【会議事項】

- 1 税活用事業の実行状況
- 2 平成 21 年度税活用事業概要
- 3 意見交換

【出席委員：8名】

- | | |
|--------|----------------|
| ◎植木 達人 | 信州大学農学部 教授 |
| 唐木 一直 | 南箕輪村長 |
| 竹松 杉人 | 南福地森林整備委員会 委員長 |
| 平澤 照雄 | 平澤林産(有) 代表取締役 |
| □松岡みどり | KOA 森林塾 |
| 宮崎美和子 | 県女性農業委員の会上伊那支部 |
| 宮島 洋子 | 伊那商工会議所 創業塾卒業生 |
| 森 敏彦 | 上伊那森林組合 参事 |
| 山浦 速夫 | 県経営者協会上伊那支部 |

【主な意見】

- 搬出間伐を進めていく上で作業路の確保開設が重要であるが、この地域は遅れているので森林のインフラ整備をする上で税事業での支援をいただけたらと思います。
- 間伐をやって今後 30 年後はどうなっていくのか。将来性を重視した展望を考えて、作業道をきちんと入れていく必要がある。
- 国産材の時代がきたといわれており、30 年後 50 年後を考えて施業していくなかでは、資源の有効利用が図られると考えているが、木材価格の低下している今の経済状態では来年度の搬出が出来るか危惧している。
- 森林を整備することが環境を守ることであり、資源を有効に利用することと考えるならば、経済状態が厳しい状況にあっても山への見方に対する基本的な考え方は変えずに



いく必要がある。

- 森林税が今大事、森林整備が大事、実績が大事というような方向に行っているのではないかと、それで森林が長期的に見て良くなるのかと考えると、どうなのでしょう、気になります。
- 薪ストーブ用の材が求められており、ボランティア等による森林整備により、間伐材を安価に薪ストーブに利用できないか。また、身近な所から森林税を活用した目に見える近いところの山の整備が大事。
- 材を出してくるまでに経費がかかる。材を搬出してもはけていかない。
- 森林整備をしても、材を資源として利用しなければ意味がない。資源循環型の取組でないといけないと感じている。そのための予算化はできるのか、それにより将来につながる施策になるので、森林税が5年間の単発で終わったのではいけない。
- 人材育成と路網等林内のインフラの問題をセットで考えなければいけない。
- 事業体によっても搬出方法や経費が違う。技術者にもレベルの差がある。
- 森林整備は肉体労働の部分が多いので、若い人たちのためにも機械化の推進が必要。伐採する技術だけでなく搬出する技術を身に付けることも大切。トータルな人材育成を実施することが求められている。
- 森林整備を含めた林業全体に対応出来る林業技術者を育てていくには、3年から4年はかかるのが当たり前で、日々の職員のスキルアップが大切である。
- 人材育成は様々な面から検討していかないといけないので、今の森林税ではできる範囲に限界があると思う。事業体全体の技術力をどう向上していくのかが課題である。
- 平成21年度の県全体の里山整備事業での間伐面積は倍増ということであるが、今の担い手不足の状況では実施に無理があるのではないかと感じている。
- 地域の人が自分の山作りに責任を持ってやるのが筋ではあるが、週に1日か2日しか山にいかない人やシルバーの方々への林業技術研修についてもサポートを考えて地域の人の育成、いく必要がある。
- 子供達の感性も多様化しており、木育事業が森林や林業への関心が向くきっかけとなればよいと思う。
- 森林を守ることにより水源地の保護につながるため、森林の売買について地域で把握していく意識づくりが大切である。
- 資源循環型の森林整備が大事な部分で、森林税により子供から大人まで森林に関わる仕組み作りをこの5年間でやっていくことが一番大きな部分という気がします。
- 林を搬出して上がってくる利益を森林整備の費用に充てられるのならいいけれど、それが充てられなくなってくると、搬出の時にも森林税を活用する事を考えないといけない。
- 林業は過去何年もやってくる中で衰退してきた。打つ手があったらもっと早い段階で何とかあったと思う。木材価格が経済環境の中で変動してしまうなか、いままで有効な手がなかったという事で、森林税だけで解決してしまうとは思えないが事業の足しになるというのは大事なことだ。

【会議事項】

- 1 税活用事業の実績見込み
- 2 平成 21 年度事業計画
- 3 意見交換

【出席委員：8名】

- | | |
|---------|-----------------------|
| □ 遠藤 寛子 | 飯伊森林組合 総務課 指導企画担当 |
| ◎ 大蔵 実 | 伊那谷の森で家を作る会 代表 |
| 小澤 千亮 | 飯伊木材協同組合 理事長 |
| 沢柳 俊之 | 地域ぐるみ環境 I S O 研究会 事務局 |
| 寺岡 義治 | 森林環境インストラクター 講師 |
| 平栗 雅代 | 飯田エフエム放送(株)パーソナリティー |
| 矢澤由美子 | 県地球温暖化防止活動推進員 |
| 山田 庄治 | 下伊那郡町村会 事務局長 |

【主な意見】

- 間伐材の利用促進を考えると、良材であっても玉切をしたために利用できなくなってしまった例がある。地区の要望も取り入れて長いままでの伐倒も取り入れて行ってほしい
- 高度間伐技術者集団育成事業はプロの方が中心となる事業なので、一般の方々が見ても分かりやすい資料づくりをすれば、理解が深まるのではないかと。
- 税事業に関わらず、木を植えるような事業では、その土地の環境を考えて植えることも指導して行ってほしい。
- 集約化をして間伐をするというのは、非常に大切なことだと思う。もう一つ木育推進事業だとか、高度間伐技術者集団育成事業もソフト面では大事だと思う。高度間伐技術者を育成するのは勿論大事だが、一般の方々には基礎的な話し、例えば木の植え方や間伐の仕方、育て方ということもあってもいいのではないかと。
- 木育推進事業では、メディア等を有効活用して事業のPRをしていく必要があると思う。
- 市町村への補助金の「森林づくり推進支援金」については、住民からこういったことに使いたいとか、いろいろなアイデアをお持ちの方や、団体があると思うので、森林税をどう使うのかというアイデアを募集するよう、各市町村が住民の皆さんに対して、広くPRできないのだろうか。
- 森林づくり推進支援金については山の循環を考えた事業について、予算付けをする必要があると思う。市町村には住民をもっと巻き込んだ計画の提案をしてほしい。
- 市町村の日常の業務の中で、こういう困った状況があるという意見が大事なのでは。
- プロである専門家や一部の小学生にとっての計画ばかりで、一般市民向けの事業がないのが寂しい。そのような計画もこれから出てくるといい。
- 20 年度の取組みを見て、小さな事業をして大きな成果をあげた事業は「木育推進事業」だと思ふ。是非この事業を拡充して取り組んでいただきたい。
- 森林税が導入されて初年度ということもあり、各市町村のソフト事業の取組みに幅があっ



た。学習プログラムというようなことが確立されれば、市町村の特長を活かした事業の展開が期待できるのでは。

- できれば、山に親しみ、山を楽しむことで自然と山が整備されていくような事業ができて、そういうことが開拓されてきたら森林税の目的にかなうのではないかと思う。

平成 21 年 3 月 11 日 (水) **第3回 大北地域会議** (北安曇地方事務所)

【会議事項】

- 1 税活用事業の実績見込み
- 2 平成 21 年度事業計画
- 3 現地調査
- 4 意見交換

【出席委員：8名】

- | | |
|---------|-----------------|
| ◎ 浅見 昌敏 | 大北木材協同組合 理事長 |
| 荒山 雅行 | 荒山林業 |
| 香山 由人 | 大北地方林業研究グループ 会長 |
| 川上 起源 | 大北地区林業経営者協会 副会長 |
| 小林 三郎 | 小谷村長 |
| 渋谷 憲幸 | 柵池高原観光協会 会長 |
| 菅沢 広人 | 長畑森林整備協議会 会長 |
| 傳刀 明 | 大町温泉郷観光協会 事務局長 |
| 平沢きわ子 | 大町市商工会議所 婦人部会長 |
| □ 嶺村 和徳 | 大北森林組合 代表理事組合長 |
| 山内香代子 | 遊企画 代表 |

- 森林整備の集約化を推進する際に、不在村所有者が問題になっている。私が行っている地区でも苦労した。承諾が取れず、部分的にできない箇所もあったのだろうか。
- 柵池モデル団地のウッドチップづくりに携わったときに気づいたが、大型チップパーは、スギは処理できるがカラマツなどの硬い木、灌木の枝などが残ってしまう。それらを処理できるチップパーの導入を検討できないか。
- シンポジウムを開催してとても内容が良かったが、その開催の広報がいきわたっていない。他の行事とかち合うこともある。早くから市町村と連携して広報をしてほしい。



【会議事項】

- 1 税活用事業の実績見込み
- 2 平成 21 年度事業計画
- 3 意見交換

【出席委員：6名】

- | | |
|---------|-------------------------|
| 川原田雅夫 | みどりの少年団北信地区協議会長 |
| 桑原 重雄 | 栄村森林組合長 |
| 竹節高四郎 | 自然公園指導員 |
| ◎ 竹節 義孝 | 山ノ内町長 |
| 原 修一郎 | 北信州森林組合 代表理事組合長 |
| 宮崎 正毅 | NPO法人北信州の森林と家をつなぐ会 代表理事 |

<市町村の担当者もオブザーバー出席し、各事業の進捗状況等について補足説明>

【主な意見】

- 里山整備を進めるうえで集約化が必要である。間伐材の有効活用を図る上でも団地化が必要であり、森林所有者に対し、さらなるPRが必要である。
- 木育推進事業は、地元材を使って子供たちが作業をしながら木のぬくもりを感じながら環境教育を進めることはすばらしい。もう少し木材を使いながら子供たちがもっと関われる工夫が考えられればいいのではないか。
- 学校教育の中で木の良さを理解してもらう授業を、支援できるグループを活用し予算を確保しながらこのような企画を検討してもらいたい。
- 切捨て間伐が多いが、間伐材の使い道をみんなで考える仕組みが必要である。
- 森林整備を進めるうえで、計画的な林道・作業道の整備が必要である。
- 本年度実施された里山整備は、大面積で実施され、生活地域からも見えPR効果は高い。森林整備は、クマ等の獣害対策や山菜等特用林産物の面からも期待は大きい。継続的实施に期待する。
- 森林税を活用した森林整備は進められているが、森林所有者の理解がまだ不足しているため、間伐が進まない個所がある。
作業路とセットにした実施が必要である。森林所有者に対し具体的なさらなる指導が必要である。
- 間伐材の利用拡大を図るうえで、間伐材を使うことに対する補助体系の整備を検討願いたい。



【会議事項】

- 1 税活用事業の実績見込み
- 2 平成 21 年度事業計画
- 3 意見交換

【出席委員：7名】

- | | |
|---------|-----------------------|
| 神戸 直日 | 長野地方林研グループ連絡協議会 顧問 |
| 島田 保彦 | 県指導林家 |
| □ 高橋 克典 | 長野法人会 事務局長 |
| 十十木謙一郎 | 長野森林組合 専務理事 |
| 中島佐代子 | NPO法人信州フォレストワーク 理事長 |
| ◎ 中村 靖 | 信州新町長 |
| 山口 智子 | 生活協同組合コープながの総合企画室担当課長 |

【主な意見】

- 間伐を進めていただきたい。また、森林経営では、間伐後には皆伐の時期となり、その後には植林が必要となってくるので、植林まで踏まえて考えていただきたい。
- 長野市の旧市内には、製材工場が無く地元材を挽く技術の継承も出来なくなってしまっている。何らか取り組んでいかないといけない。
- 地元材を公共事業等に積極的に活用して欲しい。
- 今は、間伐を重点に実施していますが、バランスを考えた取組が必要である。
- ストーリーを持ったイベント等が大切である。
- 森林に係っている皆さんは森林税の内容を理解しているが、法人会の一部の人の中には森林税をやめてもらいたいとの意見がある。これは、森林税の内容が広く理解されていないので広報していかないといけない。また、本来は一般会計の中で実施するシステムにできないか。今後は、目的税として森林税が導入されているので他の税目で増えていく危険性もある。
- 森林整備の必要性を一過性のイベントなどでもいいので、地道にPR等して行ってほしい。



（以上、平成 21 年 2 月から 3 月に開催された 9 地域会議・9 回分）